

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

事業名	教育実践体制の整備	所管課名	教育委員会	総務部	新規/継続	継続
事業開始年度	平成22年度	基本	施策コード	主 1-8-1	再	再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
行政計画上の位置づけ	「新しいふくおかの教育計画」後期実施計画 p18	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に	「新しいふくおかの教育計画」に基づき、小・中学校9年間に於いて「4年・3年・2年」の発達段階に応じた教育を推進することを踏まえた体制整備を行っているもの。(平成22年度～)	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成			
背景	学校の教育に対する満足度(H28:35%)					

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか  小中学生	対象をどのような状態にしたいのか 【前期(小1～小4)】 基本的な生活習慣の定着など 【接続期(小5～中1)】 学習意欲を高め、粘り強く学習する態度の育成、多様な相手と関わる力・集団的思考の習得など 【後期(中2～中3)】 進路について目標を持ち、社会の中で自分を生かそうとする態度の育成など

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか  
 実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

- 小学校1～4年生で少人数学級を実施  
個に応じたきめ細かな指導を行うため、35人以下の少人数学級を実施
- 小学校5・6年生で一部教科担任制、少人数指導を実施  
児童の興味・関心に応える授業の実施等により、学力の向上を図るため、一部教科担任制、少人数指導を実施
- 中学校1年生で少人数学級を実施  
個に応じたきめ細かな指導により、確かな学力の向上、中1ギャップへの対応、不登校生徒の予防などを行うため、学校選択による少人数学級を実施

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	293,680	245,812	281,427
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	293,680	245,812	281,427

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	少人数学級の実施率(小1～小4)	目標	全学校	全学校	全学校	年度
		実績	全学校	全学校		
		達成率	100.0%	100.0%		
	一部教科担任制の実施率(小5・小6)	目標	全学校	全学校	全学校	年度
		実績	全学校	全学校		
		達成率	100.0%	100.0%		
成果の指標	少人数学級の実施による「効果有」の割合(アンケートで把握)	目標	95%	95%	95%	年度
		実績	100%	96%		
		達成率	105.3%	101.1%		
	一部教科担任制の実施による「効果有」の割合(アンケートで把握)	目標	95%	95%	95%	年度
		実績	99%	98%		
		達成率	104.2%	103.2%		

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

小中学生の発達段階に応じた教育を推進するための体制整備(少人数学級の実施等に必要な教員配置等)を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

小中学生が発達段階に応じた学級編制のもとで学習し、または学力向上を図るための一部教科担任制等による授業を受ける。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

小中学生の発達段階に応じて、基本的な生活習慣や、学習意欲を高め粘り強く学習する態度などが育つ。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

未来の福岡市を支える一人ひとりの子どもたちが、健やかに成長する。

行政のコントロール要素  
 小  
 大

外的な要因  
 小  
 大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規／継続		継続
		教育委員会		教育環境部
		学校計画課		
事業名	学校規模適正化事業	基本	施策コード	主 1-8-5
事業開始年度	平成22年度	再		
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 市内の児童生徒数について、都心部において減少する一方で、住宅開発等により急激に増加する地域もある。小規模校や大規模校が抱えている学校規模に起因する教育課題を解決し、教育効果の向上を図る。	事業群	教育・健全育成環境の整備	
【事業概要】		施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度(H28:35%)	

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 「適正な学校規模」及び「これに準ずる範囲」を満たさない学校(小学校:11学級以下、31学級以上 中学校:8学級以下、31学級以上)	対象をどのような状態にしたいのか 学校の統合・分離、通学区域の変更などの手法により、「適正な学校規模」及び「これに準ずる範囲」を満たした状態

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	<input type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞鶴中ブロック:小中連携校の建設工事を実施</li> <li>・住吉中ブロック:小中連携校の建設工事を実施</li> <li>・彦岐小学校の体育館改築や運動場の拡張のためのプール移設の実施設計等を実施</li> <li>・名島小学校の校舎増築, 体育館改築の実施設計を実施</li> </ul>				

事業費 (千円)	年度		24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		306,061	416,904	852,442
	歳入	特定財源	1,895	37,615	271,982
		一般財源	298,166	379,289	580,460

### 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	学校規模適正化第1次計画対象校(14校/6年=2校)	目標	0	2	0	年度
		実績	0	2		
		達成率		100.0%		
	上記以外の「適正な学校規模」及び「これに準ずる範囲」を満たさない学校	目標	0	0	1	年度
		実績	0	0		
		達成率				
成果の指標	学校規模適正化の取組が完了した学校数(第1次計画対象校)	目標	0	2	0	年度
		実績	0	2		
		達成率		100.0%		
	学校規模適正化の取組が完了した学校数(上記以外)	目標	0	0	1	年度
		実績	0	0		
		達成率				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
地域や保護者の理解を得ながら、地域の実情に応じた課題解決の手法を検討する。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
統合や分離新設など学校規模適正化事業が推進できる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
市内の小中学校の学校規模の適正化が図られ、教育環境が改善される。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
福岡市の将来を担う子どもを健やかに育み、豊かな人間性や社会性を育成できる。

大  
行政のコントロール要素  
小  
外的な要因  
大

活動の指標  
成果の指標  
施策成果指標

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規／継続		継続
事業名	家庭教育支援事業(PTAとの連携、不登校保護者支援を除く)	所管課名	教育委員会	教育支援部
事業開始年度	平成19年度	基本	施策コード	主 1-8-1 再
根拠法令	教育基本法、社会教育法	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 議会等各方面から、家庭の教育力低下による子どもの問題行動や、 基本的な生活習慣の乱れなどが指摘され、それらに対する家庭教育の 支援施策が求められている。	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成	

**【事業概要】**

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 就学前、小・中学生の子を持つ保護者	対象をどのような状態にしたいのか 保護者として、家庭で子どもを健全に育成できる。 ・子どもに基本的な生活習慣を確立させる。 ・思いやりや規範意識、人とのコミュニケーション力など人間として必要な知・徳・体の調和の取れた心身を育む。

**25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

- 保育園や幼稚園等で開催される保護者学習会への講師派遣  
・幼稚園・保育所(園) 22園 1,491人参加
- 入学説明会等保護者学習会への講師派遣  
・小学校24校、中学校3校 計27校 2,979人参加
- 家庭教育支援パンフレット活用研修会の開催 約200人参加

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	6,766	5,174	5,828
	歳入			
	一般財源	6,766	5,174	5,828

**【活動・成果指標の達成度】**

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	幼稚園・保育所(園)への講師派遣	目標			28年度
		実績	25	22	22
		達成率			22
	小中学校への講師派遣	目標			28年度
		実績	25	27	25
		達成率			25
成果の指標	講演会の参加者満足度(アンケート調査より)	目標	90%	90%	28年度
		実績	96%	96%	90%
		達成率	106.7%	106.7%	90%
		目標			年度
		実績			
		達成率			

**ロジックモデル作成用のテーブル**  
最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
・学習会や講演会など保護者の学びの場を提供する。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
・保護者が、学習会で学んだことを具体的に実践することができる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
・自信を持って、楽しく子育てができるようになる。  
・家庭で子どもが健全に育つ。  
・地域や家庭の教育力が向上する。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
・未来の福岡市を支える一人ひとりの子どもたちが、健やかに成長する。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規／継続		継続
事業名	家庭教育支援事業(PTAとの連携の推進)	所管課名	教育委員会	教育支援部
事業開始年度	平成19年度	基本	策	主
根拠法令	教育基本法、社会教育法	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	計画	策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 議会等各方面から、家庭教育力低下による子どもの問題行動や、 基本的な生活習慣の乱れなどが指摘され、それらに対する家庭教育の 支援施策が求められている。	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 保護者	対象をどのような状態にしたいのか 市P協と協力し、保護者として、家庭で子どもを健全に育成できる。 ・子どもに基本的な生活習慣を確立させる。 ・思いやりや規範意識、人とのコミュニケーション力など人間として必要な知・徳・体の調和の取れた心身を育む。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか  
 実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

家庭での教育力の向上を図るため、福岡市PTA協議会と連携し、家庭教育に関する学習機会の提供を行う。また、社会全体で家庭教育を支援していく機運を醸成するため、学校・家庭・地域が連携し子どもの基本的な生活習慣や規範意識の向上を目指す取り組み等を推進するため、保護者が他人事ではなく主体的に家庭教育力向上につながるような下記事業を行った。

- 「家庭で楽しむ読み聞かせ講座」全7回開催 240人参加
- 「参加型ミュージカル学校公演事業～規範意識の定着を目指して～」小学校3校、中学校1校 計4校で実施 1,799人参加 (出演した教職員 8人、児童生徒 62人)
- 早寝早起き朝ごはん啓発講演会 1回 750人参加

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	927	1,003	930
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	927	1,003	930

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	読み聞かせ講座の開催回数	目標	5	7	5	28年度
		実績	5	7	5	5
		達成率				
成果の指標	読み聞かせ講座の参加者満足度(アンケート調査より)	目標		90%	90%	28年度
		実績		98%	90%	90%
		達成率		108.9%		
成果の指標	講演会の参加者満足度(大変良い、良いの割合)	目標		90%	90%	28年度
		実績		100%	90%	90%
		達成率		111.1%		

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	小
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	小
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	大
成果の指標	施策成果指標	外的な要因

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)  
 ・学習会や講演会など親の学びの場を提供する。  
 ・学校・家庭・地域(ボランティア)が連携して、保護者や市民などを対象に親子のコミュニケーションや規範意識の向上を目指す事業を行う。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)  
 ・保護者が、学習会で学んだことを具体的に実践することができる。  
 ・読み聞かせなどに関して、学校や地域の中でサポートする人のスキルアップにつながる。  
 ・家庭・学校・地域が連携して、子どもの健全育成を推進できる。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)  
 ・自信を持って、楽しく子育てができるようになる。  
 ・学校や家庭で子どもが健全に育つ。  
 ・地域や家庭の教育力が向上する。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)  
 ・未来の福岡市を支える一人ひとりの子どもたちが、健やかに成長する。

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	子どもとメディアのよい関係づくり事業	所管課名	教育委員会	教育支援部
事業開始年度	平成21年度	基本	策	コード
根拠法令	青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律	主	1-8-4	再
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に インターネット・携帯の普及により、子どもがメディアに接する時間が激増し、健全な育成を阻害しているのではないかと懸念が議会ほか各方面から上がっていた。	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
		事業群	子ども・若者の健全育成の取組み	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 保護者等	対象をどのような状態にしたいのか 子どもがメディアと正しくつきあえるように保護者が指導できるようになる。

**25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

- 平成25年度「小・中学生のメディアに関する意識と生活調査」を実施(平成25年9～10月に小・中学校計11校 約4,100人)
- 平成22年度調査との経年比較を行いその分析結果を指導部・学校等と共有し、児童生徒を指導する際の知見として活用するとともに、課題等について保護者や市民に周知・啓発のための報告会を開催(NPOと共催)
- 学習会への講師派遣5回194人参加, 出前講座2回70人参加

(参考)平成21～22年度 NPOとの共働事業として実施(2年間)し, 平成23年度から生涯学習課事業として実施している。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	297	538	452
	歳入			
	一般財源	297	538	452

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	講師派遣回数	目標	5	5	28年度	
		実績	4		5	5
	達成率		100.0%			
	年度					
成果の指標	講演会の参加者満足度(アンケート調査より)	目標	85%以上	85%以上	85%以上	28年度
		実績	92%	90%		85%以上
	達成率	108.0%	105.8%			
	年度					

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- 学習会への講師派遣や出前講座・講演会の実施
- 「子どものメディア接触に関する実態調査」

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- 正しい知識を保護者が習得できる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- 保護者が、子どもにスマートフォン等の使い方について助言や約束するなど、対応ができるようになる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- すべての子どもが、メディアと正しく付き合えるつきあえるようになる。

大  
小  
小  
大

行政のコントロール要素  
外的な要因



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続	継続
事業名	NPOとの共働による不登校児童生徒の保護者支援事業	所管課名	教育委員会 教育支援部
事業開始年度	平成19年度	基本	生涯学習課
根拠法令		策	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 家庭教育懇話会の提言を受けて、課題を抱える保護者への支援として子どもの不登校に悩む保護者に対する支援事業として実施。	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
		事業群	いじめ・不登校等対策の充実

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 不登校の子どもの保護者	対象をどのような状態にしたいのか 子育てに対する自信と意欲を回復するとともに、子どもの不登校を通して、より良い親子関係を構築することができる。

**25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

■サポーターの養成講座。不登校児童生徒の保護者の気持ちを受けとめ、共に考え、保護者自身が自らの姿に気づき、家庭での我が子とのより良い関係を再構築することを支援した。  
平成25年度 サポーター養成講座 7回実施 19人養成、  
■NPOとの共働事業。子どもの不登校に悩む保護者が、その思いや悩みを語り合うことで子育てについての不安感や孤立感等を軽減するとともに、より良い親子関係を構築するための場(講座)や、不登校に関する理解を深めるセミナーを実施した。  
※不登校ほっとライン(電話相談)利用件数309件(前年度比2.7倍)  
不登校の悩み語り合いませんか12回 154人参加(前年度比約1.2倍)  
不登校フォーラム1回 延800人参加、セミナー2回 約280人参加  
■上記事業については、学校指導課や教育相談課、えがお館とも連携して取り組み、効果を上げている。

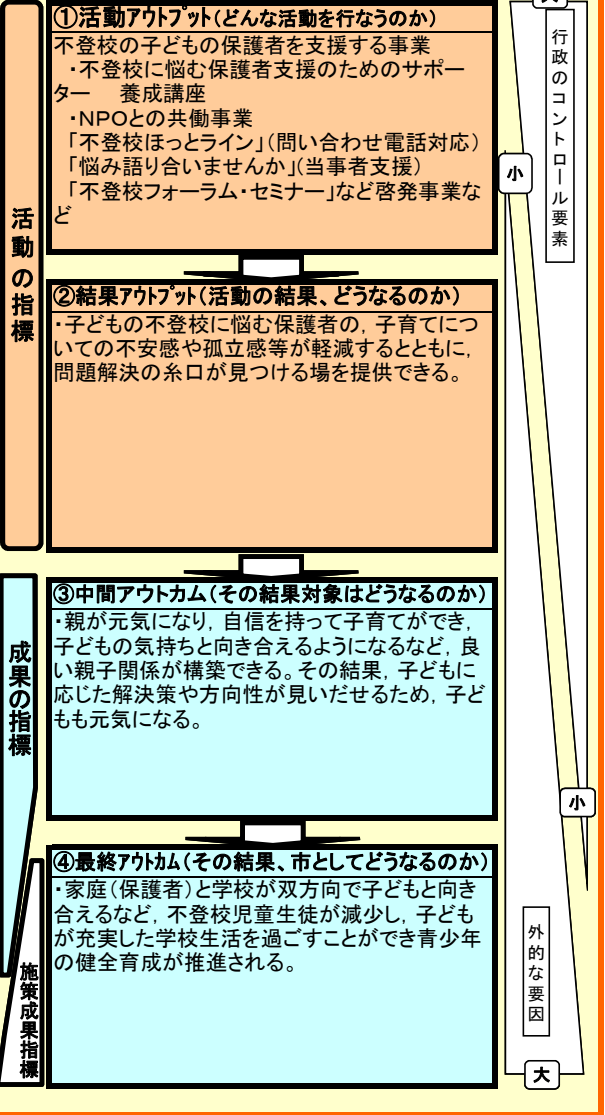
事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	1,457	1,589	1,853
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	1,457	1,589	1,853

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	サポーター養成講座	目標	6	7	6	年度
		実績	6	7		
		達成率	100.0%	100.0%		
	セミナー実施回数	目標	2	2	2	年度
		実績	2	2		
		達成率	100.0%	100.0%		
成果の指標	サポーター養成人数	目標	20	20	20	年度
		実績	21	19		
		達成率	105.0%	95.0%		
	「不登校セミナー」参加者へのアンケート結果(4段階中、大変満足・満足)の割合(共働事業)	目標	85%	85%	90%	年度
		実績	98%	85.3%		
		達成率	115.3%	100.4%		

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		教育委員会		指導部
		学校指導課		
事業名	いじめ・不登校ひきこもり対策強化	施策コード	主 1-8-3	再
事業開始年度	平成21年度	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
根拠法令	なし	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	事業群	いじめ・不登校等対策の充実	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に平成20年度において福岡市の不登校児童生徒数が1,000人を超え、不登校の子どもたちに対する対応が求められたため。	施策成果指標	学校教育活動に対する満足度(H28:35%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 福岡市の全児童生徒(約11万人)	対象をどのような状態にしたいのか 平成30年度の不登校児童生徒数を822人にする。

## 25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で行ったのか

実施手法	<input type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
<ul style="list-style-type: none"> <li>■不登校対応教員連絡会の実施:月1回実施</li> <li>■不登校対応教員研修会:初期研修2回、研修会2回実施</li> <li>■登山、博物館見学など、各学校の実態や不登校生徒の実態に応じた自然体験・社会体験活動の実施支援</li> <li>■不登校対応教員配置校への不登校専任指導主事の学校訪問の実施</li> </ul>			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計			
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	0	0	0

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	不登校対応教員配置	目標	24	24	24	年度
		実績	24	24		
	達成率	100.0%	100.0%			
	目標				年度	
成果の指標	不登校児童生徒数	目標	885	885	885	年度
		実績	988	963		
	達成率	89.6%	91.9%			
	目標	35	35	45%	年度	
実績	30.5	39.9				
達成率	87.1%	114.0%				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
不登校の多い学校に不登校対応教員の配置と校内適応指導教室の設置を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
不登校生徒が学校に復帰し、新たな不登校生徒を生まない。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
不登校生徒が減少する。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
不登校の子どもがひきこもりになることなく、社会的・経済的な自立を促すことができれば、将来的に大きなコスト削減につながる。

行政のコントロール要素

外的な要因

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	ネイティブスピーカー委託事業	所管課名	教育委員会	指導部
事業開始年度	平成6年度	基本	策	コード
根拠法令	なし	分野別目標	主 1-8-2	再
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	施策	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 福岡市の中学生、高校生に生きた英語を学ばせ、英語教育の充実改善を図る必要があったため。	事業群	国際教育の推進	
		施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度(H28:35%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 福岡市立の中・高の生徒	対象をどのような状態にしたいのか 英語によるコミュニケーション力、行動力、発信力を向上させる。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか  
 実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む  
 (株)マクシードに業務を委託し、福岡市内の中学校の全学級に年間35時間外国人英語指導講師を配置する。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	328,341	319,407	322,194
	歳入			
	一般財源	328,341	319,407	322,194

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	スピーチコンテスト校内予選を実施した学校数	目標	55	55	60	年度
		実績	45	55		
		達成率	81.8%	100.0%		
		目標				
成果の指標	英語チャレンジテストにおいて中学校3年生で英検3級相当以上の生徒の割合	目標	30	33	34	年度
		実績	33	34		
		達成率	109.7%	101.8%		
		目標				
		実績				年度
		達成率				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
外国人英語詩同行しを各学校に配置し、英語の授業を行わせる。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
生徒の英語力(コミュニケーション力)が向上する

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
生徒の英語力(コミュニケーション力)とともに、行動力、発進力が向上する。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
社会に出たときに、福岡市の未来を支える国際社会で通用する人材の育成につながる。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		教育委員会		学校指導課
事業名	道徳教育推進事業	基本	施策コード	主 1-8-1 再
事業開始年度	平成25年度	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
根拠法令	なし	計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
行政計画上の位置づけ	なし	計画	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 児童生徒の規範意識・自尊感情の低下等の課題解決に向け、「共育」を強化することで児童生徒の心の育成を図るため	施策	学校の教育活動に対する満足度(H28:35%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 市立小学校21校、中学校9校のモデル校	対象をどのような状態にしたいのか 子どもたち一人一人の自尊感情や規範意識を はぐくみ、自分や他の人のことを大切にできる心 を育成する。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

- 道徳教育推進モデル校の設置(小学校14校、中学校7校)【3年間指定】
- モデル校におけるコーディネーターの任命
- モデル校研修会の実施
- 全教職員及び地域保護者への啓発
- ・道徳教育推進リーフレット(教師用・地域保護者用)の作成・配付
- 教職員の資質向上
- 市民局公民館調整課, こども未来局保育所指導課, こども未来局青少年健全育成課との連携

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	-	13,206	11,325
	歳入			
	特定財源	-	-	-
	一般財源	-	13,206	11,325

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	学校・地域コーディネーター研修会の実施回数	目標	2	3	28年度	
		実績	2			
		達成率	-			100.0%
	道徳教育推進リーフレットの配付率(H26~)	目標			100%	年度
実績						
達成率		-	-			
成果の指標	自分の長所や短所を知っている(定着度調査)	目標		小60% 中50%	28年度	
		実績	小50%中39%			小51%中42%
		達成率				
	きまりを守ろうとする意識(定着度調査)	目標		小50% 中60%	28年度	
		実績	小40%中48%			小41%中48%
		達成率				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- ・道徳教育推進モデル校を設置
- ・道徳教育推進リーフレットの作成

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- ・地域等連携した取組の充実
- ・教職員の資質向上

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- ・道徳教育推進モデル校の児童生徒の心の育成の充実が図られる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- ・全市小中学校の児童生徒の自尊感情や規範意識をはぐくみ、自分や他の人ののこを大切にできる心が育っている。

行政のコントロール要素  
 大  
 小

成果の指標  
 小  
 大

外的な要因  
 大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続	
事業名	科学わくわくプラン	所管課名	指導部 学校指導課
事業開始年度	平成21年度	施策コード	主 1-8-1 再
根拠法令		分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 自然科学や環境教育等の専門家による出前授業や科学作品コンテスト、大学教授等の科学教室を実施することで、科学のおもしろさや楽しさを児童生徒に味わわせ、科学への興味関心を高めることをめざした。	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成
		施策成果指標	わくわくコンテスト出品作品数

**【事業概要】**

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 児童生徒	対象をどのような状態にしたいのか 理科に対する興味関心を高める。

**25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

- 小学校30校において自然科学や環境教育等の専門家による出前授業の実施
- 小中学校の児童生徒が取り組んだテーマ研究やものづくりのコンテストを実施し、表彰式を開催
- 全市児童生徒を対象に大学教授等専門家による科学教室を実施

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	1,074	1,019	917
	歳入			
	一般財源	1,074	1,019	917

**【活動・成果指標の達成度】**

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	出前授業の実施校数	目標	20	25	25	年度
		実績	21	30		
		達成率	105.0%	120.0%		
	科学わくわく教室の実施	目標	1	1	1	年度
		実績	1	1		
		達成率	100.0%	100.0%		
成果の指標	わくわくコンテスト出品作品数	目標	15,000	22,000	22000	年度
		実績	20,000	25,000		
		達成率	133.3%	113.6%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

**ロジックモデル作成用のテーブル**  
最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
○科学わくわくプランに係る募集を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
応募状況に応じて、出前授業や科学教室が実施される。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
○出前授業等によって理科に対する意識が向上し、作品コンテスト(テーマ研究やものづくり)に取り組む。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
理科好きな児童、教師が増え、理数教育の充実を図ることができる。

行政のコントロール要素

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

外的な要因

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続	継続
事業名	いじめ・不登校ひきこもり対策支援事業	所管課名	学校指導課
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード 主 1-8-3 再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に不登校傾向にある児童生徒や表面上は見えないいじめの実態をQ-Uを実施することによって客観的に把握し、個別の教育相談や学級指導を行い、不登校やいじめの早期発見や未然防止を目指している	事業群	いじめ・不登校等対策の充実
【事業概要】		施策成果指標	学校教育活動に対する満足度(H28:35%)

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか ・小学校6年生 ・中学校1, 2年生 ・教員	対象をどのような状態にしたいのか ・学級生活満足群の増加と不満足群の減少 ・いじめがなく、不登校児童生徒のいない学校 ・教員のチーム実践・OJTの定着

**25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

○不登校に関する教職員研修※小・中学校教職員 各学校1名出席悉皆研修  
 ・第1回 平成25年6月24日「不登校児童生徒のキャリア教育支援」  
 講師 九州産業大学 国際文化学部 教授 長須 正明  
 ・第2回 平成25年10月9日「不登校児童生徒の支援の在り方」  
 講師 鹿児島大学 教育学部教授 大坪 治彦

○体験活動の実施  
 ・体験活動を行い、不登校及び不登校傾向にある児童生徒の自主性や協調性、社会性、コミュニケーション力を育成し、学校・学級復帰を促す。  
 ※体験活動・・・登山、花や野菜の栽培、調理実習、美術館や博物館見学など

○学級集団アセスメント  
 ・「Q-Uアンケート」、「hyper-QUアンケート」の実施

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		18,300	18,588
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	0	18,300	18,588

**【活動・成果指標の達成度】**

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	hyper-QU実施校	目標	28	28	28	年度
		実績	28	28		
	Q-U実施校	目標	214	214	212(全小中)	年度
		実績	214	214		
成果の指標	不登校児童生徒数	目標	885	885	885	年度
		実績	988	963		
		達成率	89.6%	91.9%		
	不登校児童生徒の学校復帰率	目標	35	35	45%	年度
		実績	30.5	39.9		
		達成率	87.1%	114.0%		

**ロジックモデル作成用のテーブル**

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- ・実施人数の調査、計画立案
- ・全市一斉Q-U実施に向けた研修会実施
- ・実施上の留意点を周知

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- ・全小中学校より1名が研修会を受講し、アセスメントの方法や事例検討会の持ち方などを習得する。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- ・各学校において、生徒個々や学級の状態に対する方策や工夫改善について協議する。
- ・教員集団の組織的な事例検討を通して、チーム実践やOJTが実現する。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- ・児童生徒個々や学級の状況を把握ができる。
- ・個別の教育相談、学級指導によりいじめや不登校の早期発見や未然防止ができる。
- ・教員のチーム実践・OJTが定着する。

行政のコントロール要素

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

外的な要因

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	いじめゼロプロジェクト	所管課名	指導部	学校指導課
事業開始年度	平成25～27年(3年間)	基本	施策コード	主 1-8-3
根拠法令	いじめ防止対策推進法(平成25年法律第71号)	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	再
行政計画上の位置づけ	1-② 豊かな心の育成	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に いじめにより自ら命を絶つという悲惨な事例もおきており、社会的にも も早急に対応すべき問題となっている。いじめ問題に対して、事後に 対処するという発想から、未然防止に力をいれる必要がある。	事業群	いじめ・不登校等対策の充実	
		実施成果指標	児童生徒が主体的に企画・運営・参加する「いじめゼロサミット2014」を開催し、シンポジウム、実践報告等を通して、全小中学校のいじめ撲滅に向けた取組を推進するとともに、市民全体にいじめ防止の機運を高め、「いじめを生まない都市ふくおか」を実現する。	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 児童生徒 保護者	対象をどのような状態にしたいのか いじめ問題に対する児童会・生徒会等の活動を活性化させる。 保護者・地域に啓発活動を行い、子どもたちを支援する意識を高め、その体制を構築する。

**25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

○5～7月に、全小中学校において、学級や児童会・生徒会等での話し合いを通して、いじめゼロ宣言の原案を提出。  
○全小中学校からの原案をもとに、プロジェクト推進委員会で「いじめゼロ宣言」を集約・協議・選考。  
○8月に、サミット企画委員会の企画・運営による「いじめゼロサミット」を開催し、いじめゼロ宣言を採択。  
○9月～10月に、「いじめゼロプロジェクト」ポスターを学校、公民館等の公共施設に配布、掲示。※学校においては、9月以降、学校・学級の内いじめゼロ宣言を加えて校舎内、地域等にも掲示。  
○10月に「いじめゼロ宣言」DVDを作成し、全学校に配布するとともに市民啓発に活用。  
○11月に「思いやりパスポート」を作成し、全学校に配布。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		9,000	4,500
	歳入	特定財源		
	一般財源		9,000	4,500

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	いじめゼロサミットへの参加	目標	214校	212校	27年度
		実績	214校		100%
		達成率	100.0%		
	児童生徒が主体となったいじめ防止の取組	目標	214校	212校	27年度
実績		214校	100%		
達成率		100.0%			
成果の指標	いじめはどんなことがあってもゆるされない	目標	100	100	27年度
		実績	75		100
		達成率	75.0%		76.5%
	いじめの認知件数	目標	70件	40件	27年度
		実績	83件		0件
		達成率			

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

(1)いじめ撲滅をめざして1学期に「いじめゼロ取組月間」を全小中学校で実施する。  
(2)8月下旬に「いじめゼロサミット2014」を開催し、成果と課題を報告し合い、「福岡市いじめゼロ宣言」に基づくシンポジウムなどを行う。  
(3)2学期以降、児童生徒の意識をさらに連続発展させるために「いじめゼロ取組表彰」を実施し、交流会を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

・全学校212校の代表が集まり、「いじめ撲滅」の機運が高まる。  
・各学校で児童生徒が主体となった「いじめ防止」の取組が行われる。  
・保護者にも、いじめ防止につながる協力支援体制ができ、理解が深まる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

・全国と比べ、「いじめは許されない」と回答する児童生徒が増加する。  
・規範意識の質問項目に肯定的に回答する児童生徒が増加する。  
・いじめ以外の児童生徒の問題行動、非行が減少する。  
・いじめの認知件数が減少する。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

・いじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうることを認識した大人が増加する。  
・保護者・地域・企業等が子どもたちを支援する意識が高なり、いじめ防止の体制が構築される。  
・広く市民を巻き込んだ形でいじめ撲滅の機運が高まり、いじめを生まない都市になる。

行政のコントロール要素

小

外的な要因

大

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	アジア・ユース・教育フォーラム派遣事業	所管課名	教育委員会	指導部
事業開始年度	平成23年度	基本	再	再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	新しい福岡の教育計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 釜山市教育庁と本市教育委員会との間で締結した「教育交流に関する覚書」を受け、釜山市教育庁から「ぜひ福岡市立高校の生徒を招待したい」との要請を受け、「福岡らしい国際教育の推進」に合わせ開始。	事業群	国際教育の推進	
		施策成果指標	英検レベル2級以上の生徒数	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 福岡市立高等学校1年生 ～3年生	対象をどのような状態にしたいのか 英語によるコミュニケーションを図れる能力、 海外に視野を広げる積極性、異国の文化を理解できる豊かな国際感覚を身につけた人材。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

釜山広域市で実施されたアジア・ユース・教育フォーラム2013に福岡市立高校生10名と引率教員等3名を派遣(7/22～7/25)

- ・派遣前にプレゼンテーションの内容検討のため事前研修を数回実施
- ・帰国後、中学生イングリッシュスピーチコンテストや国際教育プロジェクト発表会において報告の実施
- ・参加した各高等学校において各校の参加者が報告会を実施

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	550	655	590
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	550	655	590

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	各高等学校における報告会の実施	目標	4	3	3	年度
		実績	2	2		
		達成率	50.0%	66.7%		
	市立高校生のフォーラムへの派遣人数	目標	10	10	10	年度
実績		10	10			
達成率		100.0%	100.0%			
成果の指標	英検レベル2級以上の生徒数	目標	40	55	60	年度
		実績	52	58		
		達成率	130.0%	105.5%		
	目標				年度	
	実績					
	達成率					

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- ・参加者の募集
- ・事前研修会の開催と指導
- ・報告会の開催

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- ・アジアユース教育フォーラムへの参加
- ・参加報告会で報告

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- ・英語によるコミュニケーション能力の向上
- ・グローバルな国際感覚の向上
- ・海外に視野を広げたりリーダーシップの向上

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- ・報告会を聞いたり、参加生徒と一緒に学習する事で学習意欲の向上が期待される。

行政のコントロール要素

外的な要因



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続	継続
事業名	グローバル チャレンジ イン 釜山	所管課名	学校指導課
事業開始年度	平成24年度	基本	施策コード 主 8-5-1 再
根拠法令		分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
行政計画上の位置づけ		施策	グローバル人材の育成と活躍の場づくり
		事業群	日本と世界をつなぐ人材の集積と交流拠点の形成
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 中学校で学んだ英語を実践的に使う場面を設けるため。		
	施策成果指標		

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 中学生	対象をどのような状態にしたいのか 英語力が向上した状態 国際感覚が身についた状態。

**25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

○福岡市英語教育推進実行委員会を設置し、事業の一部を旅行者に委託して運営する。  
○参加者より食費を徴収する。

○市立中学校及び福岡地区の私立中学校より参加生徒を推薦させ、派遣生徒100名を決定する。  
「釜山グローバルビレッジ」へ生徒を派遣し、英語体験学習を行わせる。  
派遣生徒は、校内報告会を行う。  
派遣生徒100名は、児童・生徒・市民を対象とした全市報告会で、体験学習の成果を還元する。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	9,000	11,663	10,459
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	9,000	11,663	10,459

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	英語面接テストのリスニングでとても優秀または優秀と評価された生徒の割合	目標	90	90	30年度
		実績	92		90
		達成率	102.2%		90
	アンケートで国際感覚が身についたと答えた生徒の割合	目標	80	85	年度
実績		80	85		
達成率		100.0%	85		
成果の指標	校内報告会アンケートにおいてコミュニケーションへの意欲が向上した生徒の割合	目標		70	30年度
		実績			80
		達成率			
	英語チャレンジテストにおける英検3級相当の生徒の割合	目標	30	30	34.3
実績		33	34	35	
達成率		109.7%	112.0%		

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
釜山グローバルビレッジで英語体験活動を行う。  
体験活動や休み時間に外国の生徒と交流する。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
英語力が向上する。  
コミュニケーションへの意欲が高まる。  
国際感覚を身につけるきっかけとなる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
英語体験学習の成果を参加しなかった生徒、教師に報告する。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
中学生のコミュニケーションへの意欲が喚起され、英語力が向上する。  
中学生の国際感覚が身につくきっかけが増える。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		新規	
事業名	小学生留学体験 イン モモチ	所管課名	教育委員会	指導部	学校指導課
事業開始年度	26年度	基本	施策コード	主 1-8-2	再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 学校で学んだ英語をより実践的な場面で使う機会の創設が求められていたため。	事業群	国際教育の推進		
		施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度(H28:35%)		

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 小学生5、6年生(私立・付属も含む)	対象をどのような状態にしたいのか 児童が進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、具体的な体験活動を通して英語へ慣れ親しませる。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計			2,400
	歳入			
	特定財源 一般財源	0	0	2,400

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	「楽しく英語を使った活動を行うことができた」と答えた生徒の割合	目標			80	年度
		実績				
		達成率				
		目標				年度
成果の指標	2学期からの外国語活動が楽しみだと答えた児童の割合	目標			80	年度
		実績				
		達成率				
		目標				年度

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
福岡インターナショナルスクールにおいて英語による体験活動を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
児童が英語による体験学習を受ける。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
児童が英語に慣れ親しみ、興味関心を持つ。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
○英語をツールとして使いこなすことのできる児童の育成ができる。  
○児童が英語及び国際交流の重要性を理解することができる。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続  
学校指導課

事業名	中学生留学体験 イン モモチ
事業開始年度	24年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 学校で学んだ英語をより実践的な場面で使う機会の創設が求められていたため。

所管課名	教育委員会	指導部	学校指導課
基本	施策コード 主 1-8-2	再	
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成		
事業群	国際教育の推進		
施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度(H28:35%)		

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 福岡市立の中学校の生徒 福岡教育大学付属中・福岡地区の私立中の生徒	対象をどのような状態にしたいのか 英語によるコミュニケーション力、行動力、発信力を向上させる。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
中学生1, 2年生を対象に、3日間福岡インターナショナルスクールで、英語によるプレゼンテーション作成や授業体験等を実施する。20名の参加。			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	189	315	340
	歳入			
	特定財源 一般財源	189	315	340

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	プレゼン準備の時間の確保	目標	90	90	90	年度
		実績	100	100		
		達成率	111.1%	111.1%		
		目標				年度
成果の指標	「英語でプレゼンテーションができた」と答えた生徒の割合	目標	90	90	90	年度
		実績	100	100		
		達成率	111.1%	111.1%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか) 福岡インターナショナルスクールで英語によるプレゼンテーション作成等の授業を実施する。	行政のコントロール要素 小
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか) 生徒が英語のプレゼンテーション作成等を行う。	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか) 生徒の英語力(コミュニケーション力)とともに、行動力、発進力が向上する。 生徒が異文化に触れ、英語を使って発信する方法の基礎を身につける。	外的な要因 大
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか) 社会に出たときに、福岡市の未来を支える国際社会で通用する人材の育成につながる。	

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	職場体験事業	所管課名	教育委員会	指導部
事業開始年度	平成17年度	基本	策	コード
根拠法令	なし	分野別目標	主 1-8-1	再 7-5-1
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	計画	策	策
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 平成17年度～19年度、文科の指定を受け、福岡市職場体験週間推進事業を実施。産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等を踏まえキャリア教育の推進が求められている。	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成	
		事後アンケート	「職場体験はキャリア教育の視点から意義ある教育活動である」の問いに対して、「大変思う」「思う」の回答が100%。	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 中学2年生	対象をどのような状態にしたいのか ・社会(仕事・職業等)の喜びや厳しさを実感する。 ・将来について考える。 ・新しい自分を発見する。

**25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

・生徒の体験活動を確保するために、事業所等での損害保険費用を負担。(事業の充実に向けて)

①全局・区・室に依頼し、福岡市職場体験受入れプランを作成し、すべての中学校に配布。(平成25年度は62プラン)

②企業と連携し、協力企業受入れプランを作成し、すべての中学校に配布。(連携団体:福岡経済同友会・福岡県中小企業同友会・ハローワーク)

年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
歳出合計	516	485	339
歳入			
特定財源	0	0	0
一般財源	516	485	339

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	福岡市職場体験受入れプラン数	目標	80	80	80	年度
		実績	66	62		
		達成率	82.5%	77.5%		
活動の指標	協力企業受入れプラン数	目標	30	30	45	年度
		実績	22	41		
		達成率	73.3%	136.7%		
成果の指標	事後アンケート 生徒の学校生活に変容ありと回答した割合	目標	100%	100%	100%	年度
		実績	100%	95.7%		
	意義ある教育活動の回答	目標	100%	100%	100%	年度
		実績	100%	100%		
		達成率	100.0%	100.0%		

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- ・学校現場の「職場開拓」を支援するため、受入プランの拡充。(福岡市各局等の協力・企業との連携)
- ・生徒の活動を保障するための保険の加入

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- ・生徒が安心して職場体験を実施することができる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- ・働くことの喜びや厳しさを実感する。
- ・自分の将来について考える。
- ・学びを支える学習意欲へとつながる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- ・福岡市の関係機関で職場体験を受け入れることで、市政への理解が深まる。
- ・勤労観、職業観を育むことにより、若年層の就職率の向上。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続	
		所管課名	教育委員会	指導部	学校指導課
事業名	特色ある教育推進費(小・中・高・幼・特)	基本	施策コード	主 1-8-1	再
事業開始年度	平成12年度	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
根拠法令	なし	計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に地域の人材を活用した教育活動の充実を図る必要があったから。	施策成果指標	・地域の遊び場や体験学習の場への評価(H34 65%) ・学校の教育活動に対する満足度(H34 50%)		

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 各幼・小・中・高・特別支援学校	対象をどのような状態にしたいのか 地域人材や社会施設の活用など地域と連携した教育活動を推進することにより、学校教育の活性化を図る。

**25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

各幼・小・中・高・特別支援学校の特色ある教育推進事業計画書を基に、予算を配分し、活動を促す。年度末に活動報告書WP基に活動内容を確認し次年度の参考とする。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	18,067	16,954	15,261
	歳入			
	一般財源	18,067	16,954	15,261

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	各学校から地域の特色を生かした計画書が提出される。	目標	233	233	231	年度
		実績	233	233		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	各学校が地域の特色を生かした教育活動を実施する。	目標	233	233	231	年度
		実績	233	233		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
各幼・小・中・高・特別支援学校に活動計画書を基に予算を配分する。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
配分された予算を基に、各学校が学校や地域の実態に合わせて予算を執行する。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
教育活動に外部人材を活用でき、特色ある教育を実施することができる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
地域を大切に育てる児童生徒が育つとともに、地域に開かれた学校運営を行うことができる。

行政のコントロール要素

外的な要因



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	小学校外国語活動支援事業	所管課名	教育委員会	指導部
事業開始年度	15年度	施策コード	主 1-8-2	再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に	小学校外国語活動の充実を図り、児童のコミュニケーション能力の素地を育てるため。	事業群	国際教育の推進	
背景		施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度(H28:35%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 小学生5、6年生	対象をどのような状態にしたいのか 外国の言語や文化に対する体験的な理解や、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、児童のコミュニケーション能力の素地を養う。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

- すべての6年生に35時間GTを配置
- 重点配置校には5年35時間GTを配置
- それ以外の学校には5年15時間GTを配置
- 重点配置校を指定し、公開授業を通して、外国語活動指導の充実を図る。

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	48,311	76,613	77,996
	歳入			
	一般財源	48,311	76,613	77,996

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	公開授業研修会参加者数	目標	145	290	429	年度
		実績	552	737		
		達成率	380.7%	254.1%		
		目標				年度
成果の指標	コミュニケーションへの関心・意欲が高まった割合	目標	80	80	80	年度
		実績	97	69		
		達成率	121.3%	86.3%		
		目標				年度

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- GTを配置する。
- 公開授業研修会を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- GTを生かした授業が生まれる。
- 子どもたちがネイティブや英語が堪能な方と多く触れ合う。
- 担任の授業力が上がる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- 児童のコミュニケーション能力の素地が育つ。
- 世界に羽ばたいていこうとする意欲を持つ。
- 簡単な英語を使って、日常会話に慣れ親しんでいる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- 世界に羽ばたく人材を持つことができる。

大  
小  
小  
大

行政のコントロール要素  
外的な要因  
施策成果指標

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		所管課名	指導部	学校指導課
事業名	学力パワーアップ総合推進事業(小・中)	基本	策	主 1-4-1 再
事業開始年度	H21～継続事業	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
根拠法令		策	心豊かに文化芸術を楽しむまちづくり	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	事業群	未来の担い手である子ども達への重点的な取組み	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 本市学力実態調査(平成18～19年度継続実施)及び全国学力・学習状況調査、生活習慣・学習定着度調査で明らかになった課題を克服するため。	施策成果指標	○生活習慣・学習定着度調査における検証改善サイクルの確立 ○98%以上・低学力(正答率40%以下)児童生徒の割合11.5%以下	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 本市全小中学校	対象をどのような状態にしたいのか 平成16年度から実施してきた「学力づくりパワーアップ支援事業」における実施校の成果、および平成20年度から実施してきた「学力パワーアップ総合推進事業」における推進拠点校の成果を、全小・中学校で活用し、本市児童生徒の着実な学力向上を図る全市的な取組を推進する。

## 25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
<p>■各学校の諸学力調査結果に基づき課題を解決するために、全ての小中学校で、平成25年度は3つのプランの中から重点化を図った学力向上推進プランを策定して、計画的・組織的な取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度 学力向上推進プラン             <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習規律・習慣形成プラン</li> <li>②基礎・基本育成プラン</li> <li>③活用力育成プラン</li> </ul> </li> <li>■平成22年度からは、各中学校ブロックの学力課題に応じて、小・中学校で共通のプランを選択し、小・中9年間を見通した取組を実施</li> <li>■平成25年度は、推進拠点校41校(Aタイプ:小学校1校、中学校1校 Bタイプ:小学校26校、中学校13校)を公募・選定し、公開授業研修会を実施して、学力向上の取組を発信</li> </ul>			

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	4,895	4,650	4,018
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	4,895	4,650	4,018

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	生活習慣・学習定着度調査における検証改善サイクルの確立(小学校)	目標	95	98	99	年度
		実績	97	99		
		達成率	102.1%	101.0%		
	生活習慣・学習定着度調査における検証改善サイクルの確立(中学校)	目標	95	95	96	年度
		実績	96	94		
		達成率	101.1%	98.9%		
成果の指標	低学力正答率40%以下の児童の割合(小学校)	目標	12.5以下	11.5以下	10.5	年度
		実績	5.5	5.5		
		達成率	227.3%	209.1%		
	低学力正答率40%以下の生徒の割合(中学校)	目標	12.5以下	11.5以下	15	年度
		実績	18	18		
		達成率	69.4%	63.9%		

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**活動の指標**

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 年3回の学力向上連絡会の開催
- 各学校の学力向上プランの改善、集約、分析
- 推進拠点校の選定、公開授業の開催、取組への指導助言

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 各学校が実効性のある学力向上プランを策定し、取組を意義あるものにする。
- 中間検証を位置づけたプランにより、各学校が自校の取組の有効性を検証し、より実効性のある取組を模索する。
- 多くの参観者とともに取組の有効性を検証し、各学校へ敷衍する。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 自校の課題と取り組み、指標を関連させたプランを策定する。
- 各学校が取組の実効性に目を向け、取組を改善しながら学力向上に取り組む。
- 拠点校の有効な取組が、市内の学校に広がる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

市内の全小中学校が、自校の学力の課題に即した取組を推進し、福岡市の子ども達の学力が向上する。

大

行政のコントロール要素

小

小

大

**成果の指標**

施策成果指標

外的な要因

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	スクールカウンセラー等活用事業	所管課名	教育委員会	指導部
事業開始年度	平成8年	基本	施策コード	主 1-8-3 再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 平成8年度、児童生徒の多様な悩みや相談に対応するため、3名のスクールカウンセラーでスタートし、平成13年度からは、国の補助金対象となった。	事業群	いじめ・不登校等対策の充実	
		施策成果指標	学校教育活動に対する満足度(H28 : 35%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか いじめ・不登校をはじめとした様々な諸問題を抱えた児童生徒とその保護者	対象をどのような状態にしたいのか 多様な悩みを抱えた児童生徒及びその保護者を支援し、児童生徒の社会的自立に資する。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

児童生徒及び保護者に対してカウンセリングを通して、個々の悩みや問題の解決に向けた支援を行う。

国庫補助金 計 34,313(千円)

平成25年度は、離島を除く中学校67校と市立高校4校に配置した。また、不登校児童を多く抱える40校の小学校に10日間程度の定期的派遣を行った。

配置困難な離島の2中学校には、地域の有識者等を心の教室相談員として配置し支援を行う。

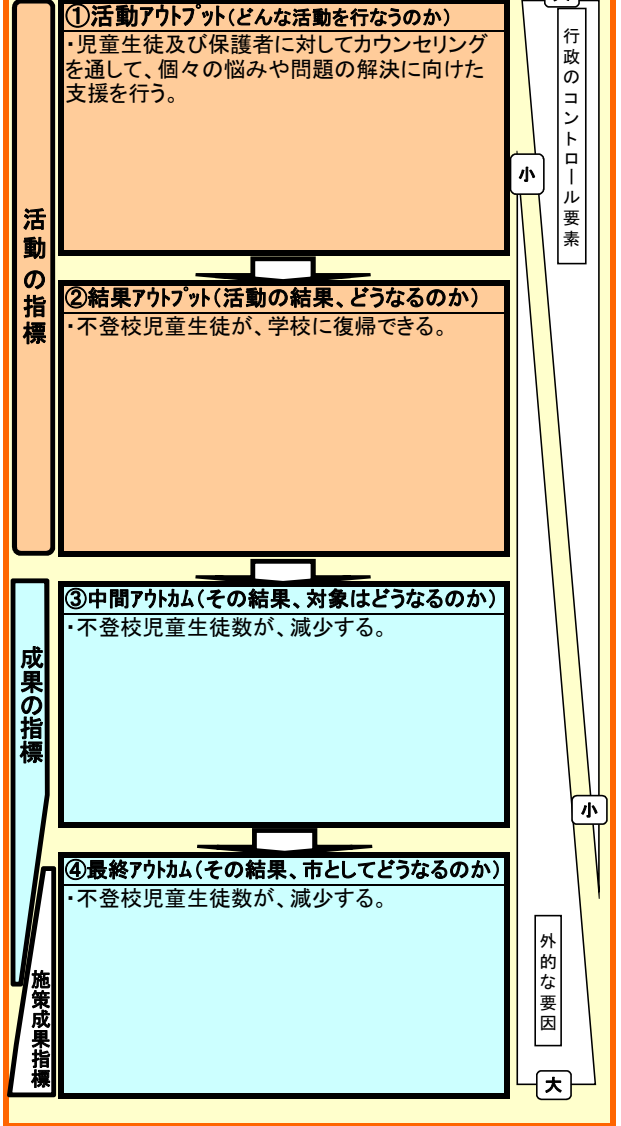
事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	107,010	105,173	104,716
	歳入			
	特定財源	34,073	34,314	34,201
	一般財源	72,937	70,859	70,515

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	スクールカウンセラーの配置人数	目標	71	71	71	年度
		実績	71	71		
		達成率	100.0%	100.0%		
	心の教室相談員の配置人数	目標	2	2	2	年度
実績		2	2			
達成率		100.0%	100.0%			
成果の指標	不登校の児童生徒数	目標	885	885	885	年度
		実績	988	963		
		達成率	89.6%	91.9%		
	不登校児童生徒の学校復帰率	目標	35%	35%	45%	28年度
		実績	30.5%	39.9%		
		達成率	87.1%	114.0%		

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続	継続
事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	所管課名	教育委員会
事業開始年度	平成20年度	指導部	教育相談課
実施主体	福岡市	基本	施策コード
根拠法令	なし	主	1-8-3
行政計画上の位置づけ	新しいふくおかの教育計画	再	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成20年度に国の委託事業として実施され、その後国の補助事業として実施されている。問題行動等の背景には、児童生徒が置かれた様々な環境の問題が複雑に絡みあっている。そのため教育と福祉の両面から働きかけることが求められている。	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
事業群	いじめ・不登校等対策の充実		
施策成果指標	学校教育活動に対する満足度(H28 : 35%)		

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか いじめ・不登校をはじめとした様々な諸問題を抱えた児童生徒とその保護者	対象をどのような状態にしたいのか 多様な悩みを抱えた児童生徒及びその保護者を支援し、児童生徒の社会的自立に資する。

## 25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

児童生徒が日常上で生じる様々な支障や困難にたいして、学校を基盤にした支援活動を行い問題解決を図った。

国庫補助金 計 13,853(千円)

平成25年度は、不登校や問題行動等を多く抱える12中学校区の小学校に配置し、支援活動を行った。  
相談件数…888件

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	41,339	51,152	105,655
	歳入			
	特定財源	16,976	19,218	38,806
	一般財源	24,363	31,934	66,849

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	スクールソーシャルワーカーの配置人数	目標	14	14	24	年度
		実績	10	12		
		達成率	71.4%	85.7%		
		目標				年度
成果の指標	不登校の児童生徒数	目標	885	885	885人	30年度
		実績	988	963		
		達成率	89.6%	91.9%		822
		目標	35%	35%	45%	28年度
	実績	30.5%	39.9%			
	達成率	87.1%	114.0%		35%	
	不登校児童生徒の学校復帰率	目標				
		実績				
達成率						
目標						

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
・学校関係者と地域機関との連携促進、児童相談所などの関係機関への連絡調整といった教育と福祉の両面から包括的に支援活動を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
・不登校児童生徒が、学校に復帰できる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
・不登校児童生徒数が、減少する。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
・不登校児童生徒数が、減少する。

行政のコントロール要素

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

外的な要因

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

新規/継続  
発達教育センター

事業名	特別支援教育支援員等の配置	所管課名	教育委員会	指導部	
事業開始年度	平成20年度	施策コード	主 1-8-1	再	
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
行政計画上の位置づけ	福岡市特別支援教育推進プラン	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 発達障がいを含む障がいのある児童生徒が増加し、当該児童生徒に対して、学校生活の介助や学習活動の支援を行う必要が出てきた。(平成19年度の学校教育法の改正に伴い、文部科学省が「特別支援教育支援員」配置のために地方交付税措置を講じたこととなった)	基本計画	事業群	知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を持った子どもの育成	
			施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度(H28:35%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何を)対象として行なうのか 市立小中学校等に在籍する発達障がいを含む障がいのある児童生徒	対象をどのような状態にしたいのか 特別支援教育支援員を配置し、幼児児童生徒に支援をすることにより、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、学校生活・学習活動の円滑化を図る。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

・特別支援教育支援員を臨時的任用職員として任用し、教育上特別な支援を必要とする児童生徒の支援をする。  
特別支援教育支援員を150名配置

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	92,916	117,944	161,828
	歳入	428	569	788
	一般財源	92,488	117,375	161,040

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	個別の支援が必要な子どもへの支援員の配置率	目標	100%	100%	100%
		実績	64.2%	70.8%	
		達成率	64.2%	70.8%	
		目標			
		実績			
		達成率			
成果の指標	学校生活の改善が図られた子どもの割合	目標	100%	100%	100%
		実績	64.2%	70.8%	
		達成率	64.2%	70.8%	
		目標			
		実績			
		達成率			

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- 特別支援教育支援員を支援が必要な児童生徒をサポートするために配置する。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- 特別な支援を必要とする児童生徒が学校生活や学習活動で支援を受け、よりよい学校生活を送ることができる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- 特別な支援を受けることによって、学習に集中でき、周囲とのトラブルが軽減するなど落ち着いた学校生活を送ることができるようになる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- 特別な支援を行うことで、発達障害のある児童生徒等が居住地域の学校で安心して教育を受けることができる体制づくりが可能となり、ユニバーサル都市に近づく。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大